



## 2019年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年11月8日

上場会社名 株式会社IBJ 上場取引所 東  
 コード番号 6071 URL https://www.ibjapan.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石坂 茂  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部門長 (氏名) 吉田 浩司 TEL 080 (7027) 0983  
 四半期報告書提出予定日 2019年11月11日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年12月期第3四半期の連結業績（2019年1月1日～2019年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期第3四半期	11,457	38.7	1,756	67.9	1,781	71.3	1,158	66.7
2018年12月期第3四半期	8,261	18.4	1,045	△6.1	1,039	△6.8	694	△6.2

(注) 包括利益 2019年12月期第3四半期 1,214百万円 (60.8%) 2018年12月期第3四半期 755百万円 (△0.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年12月期第3四半期	29.34	29.20
2018年12月期第3四半期	17.37	17.16

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年12月期第3四半期	10,573	4,900	42.6	113.30
2018年12月期	7,559	3,556	46.6	89.54

(参考) 自己資本 2019年12月期第3四半期 4,504百万円 2018年12月期 3,524百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年12月期	—	0.00	—	9.00	9.00
2019年12月期	—	0.00	—		
2019年12月期（予想）				—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無  
 期末日時点における配当予想は未定であります。

### 3. 2019年12月期の連結業績予想（2019年1月1日～2019年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,055	27.4	1,800	21.9	1,848	25.9	1,255	19.5	31.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規2社（社名）株式会社サンマリエ、株式会社K Village Tokyo

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年12月期 3 Q	41,730,900株	2018年12月期	41,337,300株
② 期末自己株式数	2019年12月期 3 Q	1,971,552株	2018年12月期	1,971,516株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年12月期 3 Q	39,470,746株	2018年12月期 3 Q	39,989,833株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、この四半期決算短信（添付資料）P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

四半期決算補足説明資料はT D n e t で同日開示しています。

（日付の表示方法の変更）

「2019年12月期 第1四半期決算短信」より、日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで、底堅い内需を背景に、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、世界経済の不透明感は続いており、我が国の景気を下押しするリスクは依然として含んでおります。

このような状況のもと、当社グループは、「日本の成婚の3%をIBJが創出する」中期経営計画実現に向けて、新たに柴田理恵氏をアンバサダーに起用するなど、婚活事業の更なる認知度を高めるとともに、真剣な婚活ユーザーをターゲットとした、創業38年を迎える結婚相談所サンマリエのブランド力を持つサンマリエ社を新たに連結子会社にするにより、会員基盤の拡大と婚活会員数の増加に努めております。また、韓国語教室の運営と人材紹介を事業とするK Village Tokyo社を連結子会社とすることにより、国際交流の場を提供し、国際結婚への足がかりにするとともに、旅行、保険、住宅ローンに加え、外国人材の就労支援など、婚活から広がる周辺領域をワンストップでサポートするなど、ライフデザイン事業の拡充強化を図っております。また、従来より非連結子会社であったIBJファイナンシャルアドバイザー株式会社は、シニア分野のヘルスケア事業に着手し、連結子会社とすることで、新たな領域での売上獲得を目指しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は11,457,238千円(前年同期比38.7%増)、営業利益は1,756,082千円(同67.9%増)、経常利益は1,781,032千円(同71.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,158,173千円(同66.7%増)となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、株式会社サンマリエ、株式会社K Village Tokyoが新規連結子会社になったこと、また、IBJファイナンシャルアドバイザー株式会社が非連結子会社から連結子会社となったこと、また、事業の業績の明確化の観点から、報告セグメントの区分を変更しております。

以下の前四半期比較については、前年四半期の数値を変更後のセグメントに組み替えた数値で比較しております。

詳細につきましては、「2.四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等)」をご参照ください。

## (セグメント別の概況)

## &lt;婚活事業&gt;

当セグメントは、営業本部(コーポレート事業より名称変更)、加盟店本部(連盟事業より名称変更)、FC事業、コミュニティ事業、イベント事業、ラウンジ事業より構成されております。

当第3四半期連結累計期間は、

- ・営業本部において、柴田理恵氏をアンバサダーに起用し、知名度を上げると共に、結婚相談事業者等の新規開業支援の強化により、加盟相談所数が増加したこと、
- ・加盟店本部において、IBJシステム(お見合い管理システム)の機能を増強し、AIを利用したマッチングなどサービス提供のバリエーションを増やしたことや、加盟店集客支援ツールのリニューアルを行い、有料プランの追加利用の増加を図ったこと、
- ・イベント事業において、アプリのダウンロードを促進し、それに伴って申し込みが増加したこと、また、パーティーのサービスの質の向上を図り、満席率が向上したことや、ゴールデンウィークの大型化により参加者が増加したこと、
- ・ラウンジ事業において、男性会員比率の増加など、定員制ラウンジのクオリティ強化を図り、お見合い件数と成婚数の増加に継続的に取り組んだこと、
- ・株式会社Diverseや、株式会社サンマリエが新たに婚活事業に加わったこと、

などの理由により、セグメント売上高は7,865,446千円(前年同期比52.6%増)、セグメント利益は2,603,405千円(同41.1%増)となりました。

＜ライフデザイン事業＞

当セグメントは、ウェディング事業、旅行事業、外国語教室の運営事業、シニア部門におけるヘルスケア事業より構成されております。

当第 3 四半期連結累計期間は、

- ・ウェディング事業において、パンフレット制作の受注が増加したこと、また、雑誌のリニューアルに伴う新規の広告掲載数の増加や、それに伴う式場への送客が増加したこと、
- ・旅行事業において、ゴールデンウィークの大型化により海外旅行客が増加したこと、
- ・株式会社K Village TokyoとIBJファイナンシャルアドバイザー株式会社が新たにライフデザイン事業に加わったこと、

などの理由により、セグメント売上高は3,591,792千円（前年同期比15.7%増）、セグメント利益は105,568千円（前年同期比128.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第 1 四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第 3 四半期連結会計期間末における流動資産は6,006,785千円となり、前連結会計年度末に比べ978,373千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が750,719千円、売掛金が119,943千円増加したことによるものであります。固定資産は4,566,593千円となり、前連結会計年度末に比べ2,035,952千円増加いたしました。これは主にのれんが471,877千円、長期貸付金が1,108,617千円、差入保証金が149,512千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は10,573,378千円となり、前連結会計年度末に比べ3,014,326千円増加いたしました。

(負債)

当第 3 四半期連結会計期間末における流動負債は3,575,083千円となり、前連結会計年度末に比べ803,583千円増加いたしました。これは主に、短期借入金が205,000千円、未払法人税等が103,972千円、1年内返済予定の長期借入金が237,000千円、賞与引当金が200,588千円増加したことによるものであります。固定負債は2,098,044千円となり、前連結会計年度末に比べ866,788千円増加いたしました。これは主に長期借入金が800,730千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は5,673,127千円となり、前連結会計年度末に比べ1,670,371千円増加いたしました。

(純資産)

当第 3 四半期連結会計期間末における純資産は4,900,251千円となり、前連結会計年度末に比べ1,343,954千円増加いたしました。これは主に配当金の支払354,292千円、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上1,158,173千円、非支配株主持分の計上365,010千円によるものであります。

この結果、自己資本比率は42.6%（前連結会計年度末は46.6%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年12月期第 3 四半期連結累計期間の業績は、2019年2月14日公表の2018年12月期決算短信に記載した2019年12月期通期の連結業績予想に対して、堅調に推移しております。これは、婚活サービス利用者の増加や、費用節減に努めたこと等が要因であると認識しております。

なお、2019年12月期通期業績予想につきましては、現在精査中であり、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示する予定です。

[対連結業績予想進捗率]	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
通期	76.1%	97.6%	96.3%	92.2%

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,832,908	4,583,628
売掛金	939,369	1,059,312
商品及び製品	1,257	9,369
仕掛品	2,299	3,242
原材料及び貯蔵品	52	32
前渡金	105,059	134,372
前払費用	105,448	148,454
未収還付法人税等	0	-
1年内回収予定の長期貸付金	-	2,400
その他	43,880	66,945
貸倒引当金	△1,866	△971
流動資産合計	5,028,411	6,006,785
固定資産		
有形固定資産		
建物	541,704	668,664
減価償却累計額	△197,097	△244,108
建物(純額)	344,606	424,556
車両運搬具	19,848	19,848
減価償却累計額	△4,543	△8,877
車両運搬具(純額)	15,305	10,971
工具、器具及び備品	410,119	393,933
減価償却累計額	△274,269	△285,723
工具、器具及び備品(純額)	135,850	108,210
リース資産	-	13,605
減価償却累計額	-	△1,078
リース資産(純額)	-	12,526
有形固定資産合計	495,762	556,264
無形固定資産		
のれん	379,932	851,809
ソフトウェア	294,141	286,076
その他	2,461	2,461
無形固定資産合計	676,535	1,140,347
投資その他の資産		
投資有価証券	272,000	397,749
関係会社株式	137,642	267,687
長期貸付金	-	1,108,617
長期前払費用	3,229	7,319
繰延税金資産	141,055	123,462
差入保証金	613,068	762,581
その他	191,348	202,563
投資その他の資産合計	1,358,343	2,869,981
固定資産合計	2,530,640	4,566,593
資産合計	7,559,052	10,573,378

(単位: 千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	148,079	111,469
短期借入金	260,000	465,000
1年内返済予定の長期借入金	295,360	532,360
未払金	292,403	342,778
未払費用	417,595	233,754
未払法人税等	230,343	334,315
未払消費税等	82,868	149,751
前受金	982,613	1,129,234
賞与引当金	-	200,588
返品調整引当金	10,203	6,196
ポイント引当金	24,715	26,406
その他	27,318	43,228
流動負債合計	2,771,500	3,575,083
固定負債		
長期借入金	1,102,220	1,902,950
リース債務	-	14,120
資産除去債務	129,035	180,973
固定負債合計	1,231,255	2,098,044
負債合計	4,002,755	5,673,127
純資産の部		
株主資本		
資本金	616,195	665,723
資本剰余金	616,195	743,123
利益剰余金	3,214,742	4,002,699
自己株式	△1,007,676	△1,007,719
株主資本合計	3,439,455	4,403,827
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	85,308	100,930
その他の包括利益累計額合計	85,308	100,930
新株予約権	31,532	30,482
非支配株主持分	-	365,010
純資産合計	3,556,296	4,900,251
負債純資産合計	7,559,052	10,573,378

## ( 2 ) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

( 四半期連結損益計算書 )

( 第 3 四半期連結累計期間 )

( 単位 : 千円 )

	前第 3 四半期連結累計期間 ( 自 2018年 1 月 1 日 至 2018年 9 月 30 日 )	当第 3 四半期連結累計期間 ( 自 2019年 1 月 1 日 至 2019年 9 月 30 日 )
売上高	8,261,058	11,457,238
売上原価	3,021,753	3,011,058
売上総利益	5,239,305	8,446,180
返品調整引当金繰入額	12,656	13,440
差引売上総利益	5,226,648	8,432,739
販売費及び一般管理費	4,180,816	6,676,657
営業利益	1,045,832	1,756,082
営業外収益		
受取利息	62	387
受取配当金	108	3,735
保険解約返戻金	-	1,924
業務受託料	600	724
補助金収入	900	-
投資事業組合運用益	-	25,110
その他	876	1,740
営業外収益合計	2,546	33,621
営業外費用		
支払利息	6,270	7,276
投資事業組合運用損	2,273	-
為替差損	-	511
その他	86	883
営業外費用合計	8,630	8,671
経常利益	1,039,748	1,781,032
特別利益		
事業譲渡益	-	4,629
特別利益合計	-	4,629
特別損失		
固定資産除却損	16,633	2,571
関係会社株式評価損	-	1,454
その他	1,674	252
特別損失合計	18,307	4,279
税金等調整前四半期純利益	1,021,441	1,781,383
法人税、住民税及び事業税	288,158	550,463
法人税等調整額	38,676	10,697
法人税等合計	326,835	561,161
四半期純利益	694,605	1,220,221
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	62,048
親会社株主に帰属する四半期純利益	694,605	1,158,173



(四半期連結包括利益計算書)

(第 3 四半期連結累計期間)

(単位 : 千円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 2018年 1 月 1 日 至 2018年 9 月 30 日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2019年 1 月 1 日 至 2019年 9 月 30 日)
四半期純利益	694,605	1,220,221
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	60,413	△5,897
その他の包括利益合計	60,413	△5,897
四半期包括利益	755,019	1,214,324
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	755,019	1,152,276
非支配株主に係る四半期包括利益	-	62,048

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第 3 四半期連結累計期間 (自2018年 1 月 1 日 至2018年 9 月 30 日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	婚活事業	ライフデザイン 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,155,489	3,105,569	8,261,058	—	8,261,058
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,528	422	3,950	△3,950	—
計	5,159,017	3,105,991	8,265,009	△3,950	8,261,058
セグメント利益	1,845,315	46,309	1,891,624	△845,792	1,045,832

(注) 1. セグメント利益の調整額△845,792千円は、セグメント間取引消去△2,900千円、のれん償却額△37,733千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△805,159千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

婚活事業において、株式会社Diverseの株式の取得に伴い、第 3 四半期連結会計期間より同社を連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、第 3 四半期連結累計期間においては348,967千円であります。

## II 当第3四半期連結累計期間(自2019年1月1日至2019年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	婚活事業	ライフデザイン 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,865,446	3,591,792	11,457,238	-	11,457,238
セグメント間の内部 売上高又は振替高	960	10,750	11,710	△11,710	-
計	7,866,406	3,602,542	11,468,948	△11,710	11,457,238
セグメント利益	2,603,405	105,568	2,708,973	△952,891	1,756,082

- (注) 1. セグメント利益の調整額△952,891千円は、セグメント間取引消去△7,500千円、のれん償却額△165,451千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△779,939千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

株式会社サンマリエ、株式会社K Village Tokyoが新規連結子会社になったことや、IBJファイナンシャルアドバイザー株式会社が非連結子会社から連結子会社となったこと、また事業の業績の明確化の観点から、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分方法の見直しを行い、「コーポレート事業」、「コミュニティ事業」、「ラウンジ事業」、「ライフデザイン事業」から「婚活事業」、「ライフデザイン事業」に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。